



女性職員活躍事例 第9回(最終回)

広島管内で活躍されている女性職員の皆さんにお話を伺いましたので御紹介します。

今回は・ **山口少年鑑別所 鑑別部門 法務教官** です。



専門官の経歴

採用
美祢社会復帰促進センター
その後の勤務歴
山口少年鑑別所 専門官
現職

Q3 この仕事に就ききっかけについて教えてください。

高校生になり、進路について考えたとき卒業後は大学進学ではなく働きたいと思い、部活の顧問の先生に相談したところ柔道をしていたこともあり刑務官はどうかと勧められました。高校の先輩にも刑務官になられた方が多く、職業として刑務官を知ってはいましたが、続けてきた柔道を生かすことができ高卒と大卒が肩を並べることができる数少ない仕事だと聞いて受験してみようかなと思いました。

Q5 業務を進める上で、相談できる職員はいらっしゃいますか。

今、まさに新しい職場環境・仕事内容で右も左もわからない状況ですが、周りの方々に助けてもらいながらなんとか過ごすことができています。拝命したばかりのころは、わからないことを誰に聞けばいいかわかりませんでした。誠実に仕事をしていれば助けてくれる人が現れると思います。

Q7 仕事のやりがいについて、教えてください。

矯正の仕事は目に見える結果がなかなか得られませんが、感謝されることも少ないのでやりがいを見いだすことは容易ではないように思います。もちろん、やりがいがあるに越したことはないのですが、やりがいとかモチベーションに頼りすぎて、気持ちが浮いたり沈んだりして不安定になるよりも、常に気持ちをフラットにして沈着冷静さを保つことが責任ある仕事をする上で一番必要なことと考えるようにしています。

Q1 現在の業務内容について教えてください。

少年鑑別所の鑑別部門という、直接在所者と接する部署で、夜間も交代で勤務しています。異動してきたばかりで、まだ業務の全容をつかんでいませんが、在所者との面接、運動や面会の立会を通して、在所者の行動を観察し、記録をまとめています。

Q2 どのような職業をされていたか。現在の仕事をする上で役に立っている経験等があれば教えてください。

今までは刑務官として成人の矯正施設で働いていました。少年施設は同じ矯正施設でも指導の仕方一つとってみても全く違いました。

ただ、組織で動いているという点は一緒なので、状況把握をすることは生かされているのではないかと思います。例えば、業務内容を点ではなく線で考えることや、在所者の動静や心情を把握することには役に立っているのかなと思います。状況把握能力は社会から求められていることの一つだと思いますから、自然と身に付いている人も多いと思います。

Q4 仕事をする上で、心掛けていることはありますか。

失敗したときに助けてもらえるようになろうね、とは後輩職員にも言うてきましたし、自分自身でも心掛けています。もちろん、失敗しないことが1番です。とはいえ、人間誰しも失敗してしまうことはあります。日頃から不誠実な勤務態度であれば誰も助けてくれませんが、そんな悲しいことはありません。失敗した時にあの人のためならと動いてもらえる、手を差し伸べてあげてもいいかなと思ってもらえるよう、自分の仕事に責任を持つこと、自分の非を認めること、何事にも一生懸命取り組み、もちろん仕事も積極的に取り組むことを意識しています。

Q6 これまでのキャリアを振り返られていかがでしょうか。

私は官民共同の刑務所の勤務経験しかありません。現在も少年施設ですし、そのことが刑務官としては少しコンプレックスになっているかもしれませんが、ですが、今は多くの刑務官が経験していないことを経験できているのだと考えるようにしています。

また、拝命4年目で中等科研修に行きましたが、そのことで苦労したことも正直あります。ただ、「若い時の苦労は買ってでもしろ。」という言葉もあるように、これもきっと将来の糧になると言い聞かされています。

Q8

女性が仕事を続ける上で、何が大切だと思われますか。

誤解を恐れずに言うのであれば割り切ること、ある程度はあきらめることだと思います。失敗したことを反省することはしなければなりません、原因と対策を考えたあとは引きずらないようにして気持ちを切り替えることが必要なと思っています。

また、思いやりの気持ちも大事だと思います。同じ女性でも家庭のある人と独身では事情が違います。お互いに思いやる気持ちがあれば、単に制度や権利としての支援やサポートではなく、温かく気持ちよく利用できるものになるのではないかと思います。

Q9

どのような職員に、この世界に入ってきてもらいたいですか。

常識のある人です。気持ちのいい挨拶ができる、嘘をつかない、感謝することができる、どんなことにでも一生懸命取り組める、そんな人として当たり前のことが当たり前に見える人と一緒に仕事がしたいです。